



東京2025
デフリンピック

TOKYO2025 DEAFLYMPICS

福島県記録誌

発刊のことば

日本で初めてとなる東京2025デフリンピックのサッカー競技が、福島復興のシンボルであるJヴィレッジを舞台に開催されました。

小池東京都知事を始め、本県での開催に御尽力を頂きました皆様に、深く敬意と感謝の意を表します。

15年前、東日本大震災と原発事故の発生に伴い、Jヴィレッジは事故対応の拠点となり、一時休止を余儀なくされました。その後、関係の皆様懸命な御努力により、2018年(平成30年)、Jヴィレッジは再始動を果たし、2021年(令和3年)には、東京2020オリンピックの聖火リレーグランドスタートの地となりました。

そのJヴィレッジにおいて、音のない世界で限界に挑む世界最高峰の選手たちのプレーが繰り広げられ、Jヴィレッジが日本サッカーの聖地として復活したことを改めて実感いたしました。

そして、県内の子どもたちを始め、観戦された大勢の方々が、きこえる・きこえないにかかわらず、「サインエール」を用いながら一体となって応援する中、日本代表が男女ともに銀メダルを獲得された光景は、正に今大会が目指した共生社会の姿そのものであります。

また、大会期間中は、国内外から訪れた1万5千人を超える観客の皆様を心のこもったおもてなしでお迎えし、福島の魅力をお伝えしたほか、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れていただくなど、復興が着実に進んでいる福島の姿を「見て」「感じて」いただけたものと受け止めております。

さらに、バスケットボール競技ですばらしいプレーを見せた越前由喜選手と山田洋貴選手や、柔道競技で個人・団体戦ともに銅メダルを獲得された蒲生和麻選手といった本県ゆかりの選手たちの活躍は、私たち県民にたくさんの元気と勇気、そして、感動を届けてくださいました。

福島県といたしましては、今後ともデフスポーツの魅力や価値を発信し、スポーツを通じて多様性への理解を深めながら、誰もが個性を発揮できる共生社会の実現に向け、取り組んでまいります。

結びに、大会の運営に多大な御支援を頂いた関係の方々、Jヴィレッジを訪れていただいた全ての皆様に心から感謝を申し上げ、発刊に当たっての挨拶といたします。



福島県知事 内堀雅雄

発刊に寄せて

100周年という記念すべき節目の年に、日本で初めて開催された東京2025デフリンピックは、33万人を超える来場者にお越しいただき、かつてない感動と興奮に包まれながら、大盛況のうちに閉幕しました。

共に大会を創り上げた、福島県、地元自治体、福島県の聴覚障害者団体、ボランティアなど関係者・関係団体の皆様、応援して下さった県民の皆様、そして本大会に携わった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

会場では、きこえない人ときこえる人が協力して開発した目でみる応援「サインエール」が活用され、会場全体が一つになって選手を後押ししました。障がいの有無を越えて皆が心をつにし、デフアスリートが多くの新記録を生み出す最高のパフォーマンスで応える光景は、まさに私たちが目指してきた共生社会の姿そのものでした。

本大会は、東日本大震災からの復興のシンボルであり、充実した設備を誇る「Jヴィレッジ」でのサッカー競技から幕を開け、選手たちの躍動と熱戦、そして県内の小中高生たちをはじめとする多くの観客の熱い応援により、会場の熱気は各競技へと広がっていきました。

貴県の取組により、次代を担う子供たちをはじめ、多くの方がスポーツの力と多様性の価値を体感する機会が創出され、大会の価値は一層高まりました。

東京2025デフリンピックは、きこえない・きこえにくい・きこえる多くの方が協働して創り上げた大会です。大会を通して得られた経験やレガシーを、福島県の皆様をはじめ、大会に関わった全ての方々と共有し、スポーツの力を通じたより良い社会への変革がさらに広がっていくことを心から願っております。

本大会の開催に向けてご尽力いただいた関係各位に改めて深く感謝申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。



東京都知事

十世百合子

目次

第1章	競技開催までのあゆみ	5
	1 - デフリンピックの概要	6
	2 - 開催までの主な経過	7
	3 - 機運醸成・理解促進の取組	9
第2章	東京2025デフリンピックサッカー競技	27
	1 - 競技会場概要	28
	2 - 競技結果	28
	3 - 福島県の取組	32
第3章	主催団体等との連携	47
	1 - 東京都との連携	48
	2 - 東京都スポーツ文化事業団との連携	50
	3 - 全日本ろうあ連盟・福島県聴覚障害者協会との連携	51
第4章	福島県ゆかりの日本選手団	53
第5章	競技開催後の取組	57
資料編		61

※第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025は「東京2025デフリンピック」と表記します。

※(公財)東京都スポーツ文化事業団は「都スポーツ文化事業団」と表記します。

※(一社)福島県聴覚障害者協会は「県聴覚障害者協会」と表記します。

※日付は現地時間、名称や肩書などは当時のものです。



第1章

競技開催までのあゆみ



1 - デフリンピックの概要

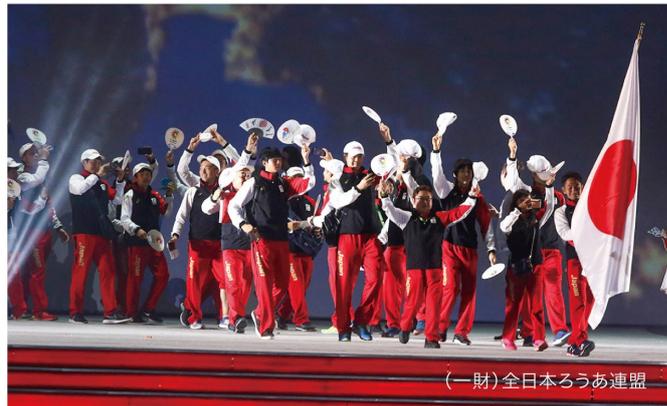
1 デフリンピック

デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催し、夏季と冬季それぞれ4年ごとに開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会です。「デフリンピック」の名称は、2001年(平成13年)に国際オリンピック委員会(IOC)が承認しました。競技は一般の競技ルールに準拠していますが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用が禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障を用いることが特徴です。

2017年(平成29年)7月トルコ・サムスンでの第23回夏季デフリンピック競技大会



開会式



日本選手団の行進

2 東京2025デフリンピック

東京2025デフリンピックは、2025年(令和7年)11月15日から26日までの12日間にわたって開催されました。日本における初めての開催であり、また、1924年(大正13年)にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年の節目となり、歴史に残る大会となりました。サッカー競技は2025年(令和7年)11月14日から25日までJヴィレッジで実施されました。

大会名称

日本語：第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
英語：25th Summer Deaflympics Tokyo 2025

参加選手数

2,943人 ※2026年1月30日時点

略称

日本語：東京2025デフリンピック
英語：TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

競技数

21競技(陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車競技(ロード)、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、自転車競技(マウンテンバイク)、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング(フリースタイル)、レスリング(グレコローマン))

大会期間

2025年11月15日(土)～26日(水)(12日間)
開会式：11月15日(土)／閉会式：11月26日(水)

観客数

約33万人
〔競技観戦者約28万人、
デフリンピックスクエア来場者数約5万人〕

参加国

79か国・地域等

2 - 開催までの主な経過

1 東日本大震災と復興五輪の開催

2011年(平成23年)3月11日に東日本大震災が発生し、東北地方を中心に、広範囲の揺れが観測され、また大津波が発生し、建物の全壊・半壊は40万戸以上、死者・行方不明者が1万8千人を超えるなど、被害は甚大なものとなり、原子力発電所の事故による災害も発生しました。こうした状況の中、福島県は世界中からの温かい支援を受けながら復興の歩みを進め、2021年(令和3年)には福島県を始め被災地域の復興のため「復興五輪」が日本で開催され、福島県では、3月25日にJヴィレッジから聖火リレーがグランドスタートし、7月には、県営あづま球場で、野球・ソフトボール競技の開幕戦を含む7試合が開催されました。



Photo by Tokyo2020

聖火リレーのグランドスタート



東京2020オリンピックの装飾が施された県営あづま球場

2 デフリンピックの招致活動・経緯・決定

デフリンピックの招致について、(一財)全日本ろうあ連盟は、2018年(平成30年)6月に大阪府で開催された第66回全国ろうあ者大会にて、「デフリンピック日本招致に関する特別決議」が採択されたことを受け、デフリンピック招致の実現に向け、2020年(令和2年)10月24日にデフリンピック準備室を設置し、招致活動を本格化させました。

その後、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が招致主体となり、「2025デフリンピックの開催計画(案)」を策定、2022年(令和4年)9月8日に公開し、東京都を開催地として2025年(令和7年)のデフリンピック開催に立候補することを表明しました。翌9日、10日にオーストリア(ウィーン)で開かれた第49回ICSD総会にて、東京の魅力をアピールしたプレゼンテーションを行った後の投票により、東京都が2025年(令和7年)のデフリンピックの開催地に正式決定しました。

2023年(令和5年)4月に、全日本ろうあ連盟からデフリンピックに係る事業の協力依頼があったことから、福島県は、県内における機運醸成とおもてなしについて協力することとしました。

3 東京2025デフリンピック大会エンブレムの決定

国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作し、2023年(令和5年)9月3日にろう学校を含む都内中高生の投票により決定しました。



コンセプト

- 人々の繋がりを意味する「輪」がテーマ
- デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現
- 花は桜の花弁がモチーフ
- デフアスリート同士の繋がり、観客や子どもたちとの繋がりなど様々な繋がりや輪をイメージし、子どもたちに楽しく描いてもらえるように1本の線で制作

4 東京2025デフリンピックの開幕がJヴィレッジ(サッカー競技)に決定

2024年(令和6年)11月13日に東京都庁で開催された「第9回2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」において、Jヴィレッジで開催されるサッカー競技が全競技に先駆け2025年(令和7年)11月14日からスタートすることが決定しました。

5 東京2025デフリンピックメダルデザインの決定

東京2025デフリンピックの入賞メダルのデザインは、次代を担う若者や子どもたちにデフリンピックやデフスポーツの魅力を知ってもらい、多くの子どもたちが大会に参画してもらうことを目的に、全国の小学校、中学校、高校生(年齢相当含む)を対象にメダルデザイン投票により決定しました。



全体コンセプト

みんな
で
羽ばたく

選手が活躍し、
大きく羽ばたいていくことを
願ったデザイン

メダルデザイン投票の概要

- 投票期間: 2024年(令和6年)9月1日～2024年(令和6年)10月14日
- 参加資格: 全国の小学生、中学生、高校生(年齢相当含む)
- 投票方法: オンラインによる投票

リボン

「藍鉄色」という緑色を含んだ濃い青色で、江戸時代の人が好んでいた色を使用しました。

メダル表

折り紙で作った鶴を描いています。選手たちが大きく羽ばたき、活躍することを願ったデザインです。

縁起が良いとされている日本の伝統的な模様を使っています。

メダル裏

いくつもの線がまじりあうデザインで、世界の人とのつながりを表しています。

6 東京2025デフリンピック応援アンバサダーの決定

「東京2025デフリンピック」の認知度や関心を高め、共生社会の理解促進につなげていくため、デフリンピックや手話等に理解のある4名の方々が「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」に就任しました。関連イベントへの出演やSNSでのメッセージ発信など、幅広く活動しました。

東京2025デフリンピック応援アンバサダー



©東京都

長濱 ねるさん
小学生のころに国際交流団体で手話を習ったことをきっかけに関心を持ち、手話番組にも出演



©東京都

川俣 郁美さん
自身もろう者であり、日本財団にてアジア太平洋地域のろう者支援事業のコーディネートを担当



©東京都

KIKI
インクルーシブ社会の実現を目的に開発された、手話が得意なデジタルヒューマン



©東京都

朝原 宣治さん
陸上競技短距離のオリンピックで、日本を代表するトップアスリート

3 - 機運醸成・理解促進の取組

1 東京2025デフリンピック2年前イベント「デフリンピックフェスティバル」

東京2025デフリンピックの開催2年前イベントとして、J2リーグで活躍するいわきFCを始めとした関係機関と連携し、サッカーに取り組む県内の小学生を対象に、2023年(令和5年)11月12日いわきFCパーク(いわき市)において「デフリンピックフェスティバル」を開催しました。(一社)日本ろう者サッカー協会、(特非)日本ブラインドサッカー協会、(一社)福島県聴覚障害者協会、いわきFCの選手に参加いただき、各種体験を行いました。



拍手の手話で集合写真



デフリンピックの手話を憶える参加者

デフサッカー体験

試合中、耳栓をして声の代わりに身振り手振りでコミュニケーションをとることで、参加者は普段のサッカーでの声出しの大切さを体感しました。



デフサッカー選手による指導



耳栓をした状態での試合

ブラインドサッカー体験

音の出る専用のボールを使用し、アイマスクをして目が見えない状態でのサッカー体験をしました。参加者はボールから出る音と仲間からの声を頼りに一生懸命ボールを追いかけてました。



音の出るボールに慣れる練習



ドリブルでリレーするいわきFCの選手や子どもたち

かんたん手話講座

簡単なクイズを通じ、国際手話と日本手話の違いなどについて学びました。



デフリンピックの基礎知識を学ぶ参加者

2 デフリンピック応援隊結成式

2024年(令和6年)6月29日に郷土の森総合体育館(東京都府中市)で開催された「東京都デフリンピックチャレンジトライアウト」開会式において「東京2025デフリンピック応援隊」がお披露目されました。

福島県からは「ベコ太郎」が出席し、「デフリンピック」「ありがとう」「よろしくお願いします」などの手話を披露しました。

福島県では、ベコ太郎のほかに「キビタン」も応援隊に就任しました。



ベコ太郎と東京2025デフリンピック応援アンバサダー川俣郁美さん



任命式に参加した東京2025デフリンピック応援隊たち

3 東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」

2024年(令和6年)11月17日に、東京2025 デフリンピックサッカー競技の機運醸成のため、100周年の記念すべき大会となる東京2025 デフリンピックを100倍楽しむための1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」をJヴィレッジで開催しました。



サッカー教室・オリジナルマッチ

サッカーに取り組んでいる小学5、6年生のクラブチームを対象としたサッカー教室とオリジナルマッチを実施し、スペシャルゲストとして元なでしこジャパンの岩淵真奈さんに参加いただきました。

オリジナルマッチではデフサッカーを体験してもらうため、声出しOKとNGの時間に分けて試合を実施することで、普段のサッカーとの違いを体感してもらいました。



オリジナルマッチに参加する岩淵さん

体験ブース

－ デフ・パラスポーツ競技体験

デフサッカーやデフ卓球のデフスポーツ体験、パラリンピックで注目のブラインドサッカー、ボッチャのパラスポーツ体験を実施しました。



デフサッカー体験



デフ卓球体験



ボッチャ体験

－ 手話体験・情報保障技術体験・きこえない体験

県聴覚障害者協会による、かんたんで楽しい手話体験や情報保障技術体験、きこえないVR体験を行いました。



手話体験・情報保障技術体験



VRを使用したきこえない体験

ステージコンテンツ

－ デフアスリートインタビュー

デフカーリング山口翔大選手（郡山市在住）、デフバスケットボール越前由喜選手（西郷村出身）デフサッカー林滉大選手、岡田拓也選手に登壇いただき、デフスポーツの魅力をお話いただきました。



デフバスケットボール越前選手(左)デフサッカー林選手(右)

－ ふるさとの祭りタイアップ企画 伝統芸能ステージ 菅波青年会じゃんがら念仏踊り

いわき市を拠点に活動する菅波青年会にお越しいただき、いわき市とその周辺地域に伝わる伝統芸能であるじゃんがら念仏踊りを披露いただきました。



菅波青年会のじゃんがら念仏踊り

－ Fukurumカードタイアップ企画 高校生による新商品開発発表会

県内の高校生などによる県産品の新商品開発や販売活動を支援する「ふくしまの未来を創るFukurum基金」事業において採択された学校に、新商品の発表をしていただきました。福島県立ふたば未来学園高等学校は請戸港で水揚げされたヒラメを使った「なみえバーガー」、福島県立あさか開成高等学校は地域の素材を活用した「エシカルお菓子」を紹介いただきました。



ふたば未来学園高等学校の発表



あさか開成高等学校の発表

－ 講演 ～きこえない人ときこえる人をつなぐ立場で語る、日常からデフリンピックまで～

日々きこえない人ときこえる人のことばや思いをつないでいる手話通訳士保科隼希さん（福島市出身）に、誰もがぐらしやすい共生社会がどんなものかお話をいただきました。



保科さん

ー 1年後、デフリンピックを100倍楽しむためのトークイベント

岩淵真奈さん、保科隼希さん、デフフットサル選手岩淵亜依さん、福島県文化スポーツ局長が登壇し、きこえるアスリート・きこえないアスリート、手話通訳士、行政といった様々な立場から、1年後のデフリンピックが100倍楽しむになるお話を伺いました。



岩淵真奈さん

保科さん(左)、岩淵亜依さん(右)

ー デフサッカー日本代表候補激励

デフサッカー日本代表候補の皆さんに登壇いただき、デフリンピックに向けての意気込みを語っていただくとともに、福島県文化スポーツ局長から東京2025デフリンピック大会エンブレムが描かれた白河だるまを贈呈し、激励しました。



デフサッカー日本代表へ白河だるま贈呈

4 東京2025デフリンピック300日前カウントダウンイベント

2025年(令和7年)2月1日に円谷幸吉メモリアルアリーナ(須賀川市)で行われた福島ファイヤーボンズ公式戦において、「東京2025デフリンピック300日前カウントダウンイベント」を開催しました。



デフバスケットボールチーム「scratch」

デフバスケットボール教室

バスケットボールに取り組む地元の小学生を対象にデフバスケットボール教室を実施しました。デフバスケットボール越前由喜選手(西郷村出身)、山田洋貴選手(いわき市出身)が所属するデフバスケットボールチーム「scratch」が講師を務め、聴覚障がいやデフバスケットボールの環境を理解してもらえるよう、ハンドサインによるコミュニケーション、音や声に頼らないバスケットボールの体験を行いました。



越前選手(中央)と参加者



デフバスケットボールエキシビジョンマッチ

scratchと福島県立清陵情報高等学校男子バスケットボール部によるデフバスケットボールエキシビジョンマッチを行いました。



山田選手(左)、越前選手(右)

ハーフタイムでデフリンピックのPR

ファイヤーボンズ公式戦のハーフタイムで越前選手、山田選手にデフリンピックへの意気込みを語っていただきました。



山田選手(左)、越前選手(右)

各体験ブース

体験ブースではポッチャと車いすバスケットボール体験、手話体験や指文字スタンプで名前づくり体験のブースを設置し、多くの方にパラスポーツや手話の魅力を体験いただきました。



手話体験ブース



車いすバスケ体験ブース

5 がんばっぺふくしま！応援の集い

2025年(令和7年)3月15日にベルサール東京日本橋(東京都中央区)で第8回「がんばっぺ福島！応援の集い」が開催され、東京2025デフリンピック応援アンバサダーの川俣郁美さん、デフサッカー女子日本代表候補西戸湖乃華選手(福島市出身)、デフバスケットボール男子日本代表候補越前由喜選手(西郷村出身)がデフリンピックのPR、デフリンピックにかける思いやデフスポーツの魅力を語っていただきました。また、内堀知事を交え、来場者全員で「がんばっぺ福島！」を手話で行い、会場を盛り上げました。

ブースではパネル展示を行い、希望者にポスターを配布しました。



「がんばっぺ福島！」の手話を練習する登壇者



©東京都

東京2025デフリンピック
応援アンバサダー
日本財団職員
川俣 郁美

東京2025デフリンピックを終えて

デフリンピック応援アンバサダーとして、「違いは素敵である」というメッセージを大切に活動してきました。人と人がつながることで、少しずつ相互理解が深まっていく—その確かな手応えを、さまざまな場面で感じることができました。

「がんばっぺ福島」や大会100日前イベントでは、開催を心待ちにする多くの応援の声に触れ、共生社会への期待が大きく高まっていると感じました。大会期間中に訪れたサッカー会場Jヴィレッジでは、障がいは決して「何かを失った」のではなく、むしろ、だからこそ気づける視点や、社会に貢献できることがあることを、選手たちがその姿で社会に示してくれました。

会場では選手たちの活躍に興奮し、きこえる・きこえないに関わらず、見知らぬ人同士が一つになってサインエールで応援する熱気に包まれ、障がいや言語や文化の違いを超えて人をつなぐスポーツの力を実感しました。

この大会をきっかけに、誰もがなりた夢をめざせる社会に向けた取り組みがさらに進んでいくことを願っています。

6 東京2025デフリンピック200日前企画

2025年(令和7年)4月28日、サッカー競技開幕200日前に合わせて、福島県庁及びJヴィレッジに横断幕、カウントダウンボード、のぼり旗等を設置しました。また、4月28日から5月27日まで県庁西庁舎2階の県民ホールで200日前記念展示を行いました。



本庁舎に掲出した横断幕



県庁構内に設置したのぼり旗



200日前記念展示

7 東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーター任命

2025年(令和7年)6月27日に福島県庁で東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーター任命式を開催し、内堀知事からサッカー元日本代表の北澤豪さんへ任命状をお渡ししました。北澤さんは(一社)日本障がい者サッカー連盟会長として障がい者サッカーの普及啓発活動に積極的に取り組まれており、スペシャルサポーター任命に至りました。

北澤さんから「私が発信していくことで、より多くの方々にデフリンピックについて知ってもらいたい」「子どもたちが代表のユニフォームを着たいと夢見るような環境を作りたい」とコメントをいただきました。



内堀知事(右)から任命を受ける北澤さん(左)



東京2025デフリンピック
サッカー競技
スペシャルサポーター
北澤 豪

東京2025デフリンピックサッカー競技 スペシャルサポーターとして活動して

東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターに任命いただき、応援の先頭に立たせていただいたことに、心より感謝いたします。日本開催が決まる以前から、日本障がい者サッカー連盟会長としてサッカー競技に出場した選手たちを近くで見続けてきました。ひたむきにサッカーと向き合い、日々研鑽を積んできた努力が、サッカーの聖地・Jヴィレッジで実を結び、男女ともに初のメダル獲得につながったのだと思います。さらに、選手たちを後押ししたのはサポーターの力でした。応援を通じ、「きこえる」「きこえない」を越えて会場が一体となった瞬間は、まさに共生社会の実現を予感させるものでした。今大会で、デフスポーツならではのハンドサインやアイコンタクトによるコミュニケーション、音がきこえないことを感じさせない激しい攻防など、高い技術力や試合の魅力が多くの人に伝わったと思います。東京2025大会は終わりましたが、選手たちの闘いはこれからも続きますので、ぜひ引き続き応援をお願いいたします。

8 東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」

2025年(令和7年)8月9日にうすい百貨店(郡山市)で、東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」を開催しました。

ステージイベント

ー デフスポーツ紙芝居SHOW!「デフスポーツってなあに?」

(株)漫画家学会が、視覚的情報保障の体験として「みる力」を鍛えるクイズやデフリンピックの説明を盛り込んだ紙芝居を披露しました。



紙芝居「デフスポーツってなあに?」

－ スペシャルトーク

デフサッカー男子日本代表キャプテンの松元卓巳選手に「音のない世界で伝わるもの」をテーマに日本代表になるまでの道のりや、デフリンピックにかける思いなどをお話いただきました。



松元選手

－ デフアスリートトークセッション

デフバスケットボール日本代表越前由喜選手（西郷村出身）、デフカーリング日本代表山口翔大選手（郡山市在住）、デフサッカー西戸湖乃華選手（福島市出身）といった福島県ゆかりの3名のデフアスリートと、東京2025デフリンピック応援アンバサダーの川俣郁美さんによるトークセッションを実施し、デフスポーツの見どころや情報保障についてのトークが繰り広げられました。最後に会場の参加者全員で手話をベースにした応援「サインエール」を行い、応援ムードを盛り上げました。



トークセッション

－ 体験・展示ブース

体験ブースでは、県聴覚障害者協会による手話・情報保障体験ブースと福島民報社による応援メッセージ記入コーナーが設置されました。参加者が記入した応援メッセージは、2025年（令和7年）11月15日の朝刊に掲載されました。

展示ブースでは、全日本ろうあ連盟の東京2025デフリンピック大会PRカーと東京都が企画したカウントダウンモニュメントが展示されました。



手話・情報保障体験ブース



応援メッセージ記入コーナー



大会PRカー



カウントダウンモニュメント



イベント来場者との集合写真

東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ 「デフスポふくしま」に出演して



デフサッカー選手
西戸 湖乃華

2023年12月に初めてデフサッカー日本代表合宿に参加し、2024年1月からは女子デフサッカー日本代表候補として合宿に参加してきました。

私は、幼い頃から体を動かす事が好きで、様々なスポーツを経験してきました。高校生の時にやり投げに出会い「デフリンピックに出場したい」という夢を持っていましたが、肩を怪我してしまい選手になるという夢を失いました。

そんな時にデフサッカーを知り、代表合宿に参加し、レベルが高く壁を感じましたが、「一から夢を追いかけてみたい」という小学生以来のわくわくした気持ちになり、練習を積み重ねて強くなって仲間と共に「世界一」を目指そうと決心しました。2025年1月から3月まで次第に代表候補の人数が減り、危機感を感じながらプレーをしてきましたが、2025年7月の代表発表で落選となり悔しい日々を過ごしました。

その1週間後に「東京2025デフリンピック100日前カウントダウン」イベントがあり、落選したのに参加しているのが不安でいっぱいでした。「応援してくれたのに期待に応えられずに申し訳ない」という気持ちのまま参加しましたが、イベントで皆さんから励ましを頂き、4年後に向けて何度も何度も転んでも諦めずに立ち上がって頑張ろうという気持ちになりました。



第20回冬季デフリンピック
カーリング競技日本代表
山口 翔大

うすい百貨店でイベントが開催され、お越しいただいた方々にデフリンピックやデフスポーツの魅力を幅広く発信することができました。音に頼らずにきこえない・きこえにくい選手に応援を届けることのできる「サインエール」を、会場の座席に収まらないほどの方々とともに表現したときの光景は強く印象に残っています。この応援の波が、Jヴィレッジで開催されたサッカー競技で、見ていて思わず心が熱くなるような圧巻の応援へと繋がったのではないかと思います。応援くださった方々や関係者の皆さまには大変感謝しています。この盛り上がりやレガシーによって、デフスポーツが更に発展することと、共生の輪がより社会に広がることを願っています。

9 東京2025デフリンピック開幕直前イベント

2025年(令和7年)11月8日、とうほう・みんなのスタジアム(福島市)で、東京2025デフリンピック開幕直前イベントを開催しました。

イベントでは、デフサッカー男女日本代表の調整を兼ねたエキシビジョンマッチが行われ、デフサッカー女子日本代表は尚志高校女子サッカー部と、デフサッカー男子日本代表はFCプリメーロ福島と対戦しました。



女子日本代表



デフサッカー女子日本代表、尚志高校女子サッカー部



男子日本代表



試合前には、東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターの北澤豪さんが挨拶を行い、選手へエールを送りました。

スタンドでは、観客の皆さんによるサインエールや応援ボードの掲示が行われ、選手を応援しました。



観客、選手へ向けて挨拶する北澤さん



サインエールの様子



応援ボード

女子と男子の試合の間には、日本障がい者サッカー連盟の協力によるウォーキングフットボール体験を実施しました。福島市内の小学生とその家族合わせて30名が参加し、年齢や性別関係なくサッカーを楽しみました。



ウォーキングフットボールの様子



ウォーキングフットボールを行う北澤さんと参加者

体験ブースでは、県聴覚障害者協会による手話体験ブース、県障がい者スポーツ協会によるボッチャ体験ブースを設置しました。



ボッチャ体験



手話体験ブース

10 県内プロスポーツチームと連携したデフリンピックPR

FUKUSHIMA 5STARSとの連携

福島県では地域活性化や心豊かな暮らしの実現を図るため、県内5つのプロスポーツチーム(福島ユナイテッドFC、福島レッドホープス、福島ファイヤーボンズ、いわきFC、福島デンソーエアリービーズ)をFUKUSHIMA 5(ファイブ)STARSと総称し、様々な取組を進めています。東京2025デフリンピックに向けて、各チームと連携し、ホームゲーム等でデフリンピックをPRいただきました。



各チームにはホームゲームで広報物を配布していただいたほか、サッカーチームの福島ユナイテッドFCといわきFCには選手が出演するデフリンピックPR動画の配信などを実施いただきました。

福島ユナイテッドFCとの連携

2024年(令和6年)7月7日にとうほう・みんなのスタジアム(福島市)で行われたホームゲームで「東京2025デフリンピックサッカー競技福島県開催決定記念手話応援デー福島県スペシャルマッチ」を実施し、手話応援動画の配信、デフサッカー体験教室、手話体験などを行いました。

2025年(令和7年)には、10月26日にとうほう・みんなのスタジアムで行われたホームゲームで手話体験ブースを出展しました。その他のホームゲームにてチラシ等広報資材の配布、東京2025デフリンピック直前期にはカウントダウン動画をSNSで発信いただきました。

2024年(令和6年)7月7日手話応援デー



© FUKUSHIMA UNITED FC

デフサッカー日本代表と福島ユナイテッドFC選手によるデフサッカー体験教室



© FUKUSHIMA UNITED FC

福島ユナイテッドFC選手が出演する手話応援動画の放映



© IDFA

カウントダウン動画



© FUKUSHIMA UNITED FC

手話で応援するサポーター



© FUKUSHIMA UNITED FC

手話体験ブースでの指文字スタンプ体験

いわきFCとの連携

2024年(令和6年)11月10日にハワイアンズスタジアムいわき(いわき市)で行われたホームゲームで「東京2025デフリンピック福島県開催手話応援デー」を実施し、手話応援動画の配信、デフサッカー体験教室、手話体験などを行ったほか、会場アナウンスなどを手話通訳し、きこえない人に楽しんでいただく「手話応援席」を設け、福島県立聴覚支援学校平校の児童を招待しました。

2025年(令和7年)には、9月27日にハワイアンズスタジアムいわきで行われたホームゲームで手話体験ブースの出展、デフサッカー男子日本代表キャプテンの松元卓巳選手によるデフサッカー体験などを実施しました。その他のホームゲームにてチラシ等広報資材の配布、東京2025デフリンピック直前期にはデフリンピックPR動画をSNSで発信いただきました。

2024年(令和6年)11月10日手話応援デー



© IWAKI FC

会場全体で手話応援のデモンストレーション



© IWAKI FC

デフサッカー日本代表といわきFC選手によるデフサッカー体験教室



手話応援席での観戦



手話体験ブースでの指文字スタンプ体験

2025年(令和7年)9月27日ホームゲームでのPR



松元選手と手話を学びながらPK対決をする参加者



試合前に来場者に向けてデフリンピックのPRを行う松元選手



デフリンピックPR動画

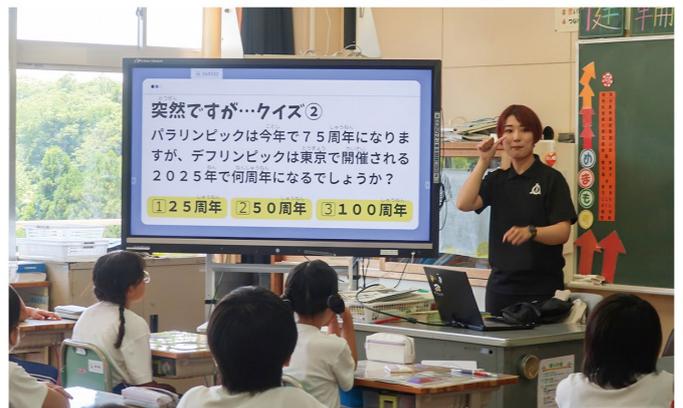
その他プロスポーツチームとの連携

福島レッドホープス、福島ファイヤーボンズ、福島デンソーエアリービーズでは各チームのホームゲームにおいて、チラシ等の広報資材を配布しました。

11 手話に親しむ出前講座

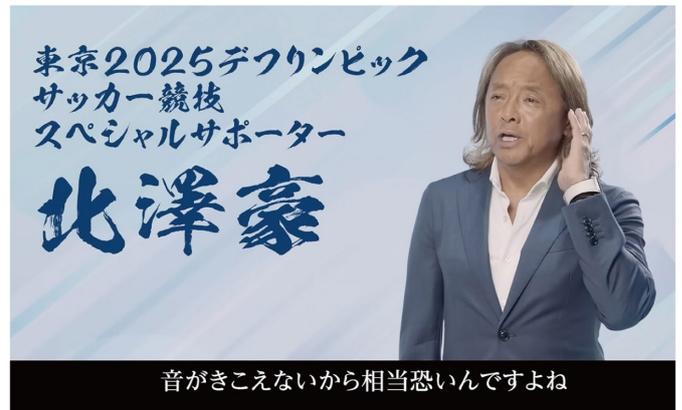
デフリンピックに向けた機運醸成と、子どもたちにろう者や手話に対する理解を深めてもらうため、「手話に親しむ出前講座」を実施しました。講座は県聴覚障害者協会の協力のもと、きこえない講師と手話通訳士のペアを各学校に派遣して行いました。

2024年度(令和6年度)は浜通り地域の小中学校13校を対象に実施、2025年度(令和7年度)は対象を県内全域に広げ50校の小中学校で実施しました。



12 プロモーション動画の制作

東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターの北澤豪さんとデフサッカー日本代表の松元卓巳選手、古島啓太選手、伊東美和選手、岩淵亜依選手に出演いただき、デフサッカーの魅力を一時的に感じてもらうことを目的に制作しました。YouTube福島県公式チャンネルでの公開や、県内商業施設での放映、デフサッカー日本代表が出演するイベントでの使用など幅広く活用しました。



13 情報発信

広報資材の制作

デフリンピック認知度向上のため、チラシ、ポスター、うちわ等の配布物を制作し、イベントでの配布や、県内施設等への配架をしました。

イベント等の装飾で使用するのぼりや横断幕、カウントダウンボードは、大会との統一感を出すために、都文化スポーツ事業団が制作した大会装飾デザインの「さくら」を一部に使用しました。

自治体でのPR等に役立ててもらえるよう、デフリンピックの概要や、福島県での各種取組状況、今後の予定などをまとめた「東京2025デフリンピックサッカー競技開催に関するガイドブック」を作成し、公表しました。



ポスター・チラシ(共通デザイン)



きこえない・きこえにくい人のオリンピック

デフリンピックを見逃すな。

2025 11.14▶25

福島県Jヴィレッジでサッカー競技開催

観戦無料

東京2025デフリンピック概要

- 大会日程 11月15日~26日
- サッカー競技日程 11月14日~25日
- 競技種目 21競技

詳しくは福島県HPへ

丸うちわ

デフリンピックとは?

デフ(Deaf)とは英語で「きこえない」という意味。デフリンピックはきこえない・きこえにくい人にとって最高峰の国際スポーツ大会です。2025年、東京都をメイン会場に、70~80か国・地域から約3,000人の選手が来日し、競い合います。2025年の大会は、国内初開催であり、初回のデフリンピックから、100周年を超える記念すべき大会となります。

きこえない中でスポーツをするということ。

きこえない人のスポーツはチームメイトとの声かけで判断し、次の動きをとる場合が多いですが、きこえない人はいくつかの情報が入らないのでアイコンタクトやサインでコミュニケーションをとります。目で多くの情報を受け取るため、目が大事な要素となります。また、審判の合図なども音ではなくフラッシュランプや旗などで視覚的にわかるように工夫がされています。

国際手話で世界とつながろう。

両手で線を描く動作 日本列島の形 右手を口元から離す
国際手話は日本語とは異なる手話であり、外国のきこえない・きこえにくい人と話すために使われる世界共通の手話言語です。英語とも異なる言語なので、英語力は必要ありません。この機会に国際手話を覚えて、皆でデフリンピックを盛り上げましょう!

手話じゃなくても。

きこえない・きこえにくい人の中には手話を使えない人もおり、筆談を好む人もいます。英語表記やピクトグラムなど、文字とイラストを使えば、障がいがある人もない人も、言がわかりやすいですよ!

(公財)福島県障がい者スポーツ協会
福島県福島市杉妻町2-16 ☎024-521-7875
para-sports@pref.fukushima.jp

きこえない・きこえにくい人のオリンピック

東京2025デフリンピック

サッカー競技

【会場】Jヴィレッジ

2025.11.14 FRI ▶ 25 TUE

観戦無料 申込不要

グループステージ	男子	女子	日本 vs	イギリス
11月14日(金)	男子	女子	日本 vs	アメリカ
11月15日(土)	男子	女子	日本 vs	イタリア
11月16日(日)	男子	女子	日本 vs	イギリス
11月17日(月)	男子	女子	日本 vs	メキシコ
11月18日(火)	男子	女子	日本 vs	ケニア
11月19日(水)	男子	女子	日本 vs	オーストラリア
11月21日(金)	男子	女子	日本 vs	オーストラリア

決勝トーナメント

11月20日(木)	男子	準々決勝
11月22日(土)	男子	準決勝 順位決定戦
11月24日(月)	男子	3位決定戦 順位決定戦
11月25日(火)	男子	決勝 3位決定戦

※試合日程は予告なく変更となる場合があります。最新の試合日程は必ずHPからご確認ください。

福島県

直前期PRチラシ

EXHIBITION MATCH

デフサッカー日本代表の試合を福島市で観戦するチャンス!

11.8(土)

女子日本代表 vs 尚志高校女子サッカー部

男子日本代表 vs FCプリメーロ福島

デフリンピック期間中の特別企画!!

【会場】Jヴィレッジ

11.14(金)11:00~ オープニングセレモニー

11.15(土) ブルーインパルス

応援しよう! 福島県ゆかりの代表選手

バスケットボール 11.16(日)-25(火) 大田区総合体育館

柔道 11.16(日)-18(火) 東京武道館

きこえない・きこえにくい人のオリンピック

東京2025デフリンピック

サッカー競技 Jヴィレッジ 開催まで

200 日

2025 11.14 FRI ▶ 25 TUE

TOKYO 2025 DEAFlympics Soccer, J-village

Welcome to FUKUSHIMA, Japan.

- 一部に「さくら」のデザインを取り入れた
- カウンタダウンボード
- 福島県独自ののぼり
- 横断幕

TOKYO 2025 DEAFlympics Soccer, J-village

東京2025デフリンピック

サッカー競技 Jヴィレッジ開催

Welcome to FUKUSHIMA, Japan.

福島県 Fukushima Prefecture

きこえない・きこえにくい人のオリンピック

東京2025デフリンピック

2025.11.14 - 25 サッカー競技 Jヴィレッジ開催!!

TOKYO2025DEAFlympics Soccer, J-village Welcome to Fukushima, Japan.

東京2025デフリンピックふくしまポータルサイト

機運醸成の取組や大会期間中の企画を網羅し、デフリンピックサッカー競技福島県開催関連の情報や福島県ゆかりのデフアスリートの紹介等を掲載するなど、「福島県とデフリンピック」に関する情報を集約した「東京2025デフリンピックふくしまポータルサイト」を構築しました。



メディアによる広報

広く福島県民に広報するため、県内の新聞及び民放テレビ局を全て活用し広報を実施しました。

SNSによる広報

福島県公式Instagram、Xを中心に、イベントや県の取組、カウントダウンなど、機会を捉え情報発信しました。





第2章

東京2025デフリンピック サッカー競技

1 - 競技会場概要

日本サッカーの聖地、復興のシンボルJヴィレッジ

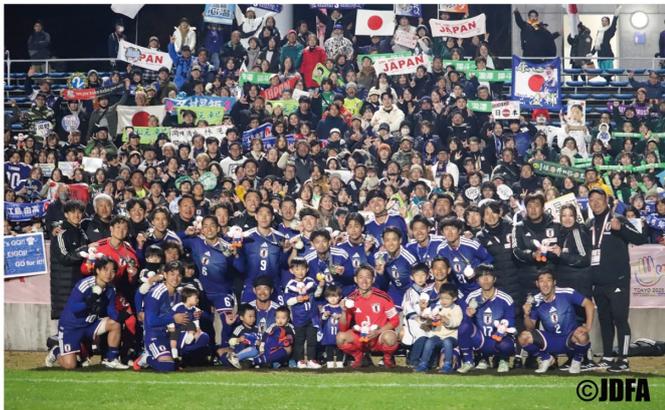
Jヴィレッジは、1997年(平成9年)に日本初のサッカーナショナルトレーニングセンターとして開設され、W杯サッカー日本代表のトレーニングキャンプをはじめ、さまざまなスポーツチーム、アスリートに利用されてきました。2011年(平成23年)3月に発生した東日本大震災及び原子力発電所事故により、Jヴィレッジは事故収束のための対応拠点となり、営業休止となりましたが、多くの方の支援により2019年(平成31年)4月全てのピッチや施設が利用できるようになり、全面再開を果たしました。



2 - 競技結果

1 男女日本代表が銀メダルを獲得

日本は自国開催のデフリンピックに向けた強化合宿で着実に力をつけ、大会直前期には福島市に入り調整を行うなど、入念な準備が奏功し、男子は予選を1位通過、女子も王者アメリカに次ぐ2位で通過する快進撃を続け、男女ともにデフリンピック史上初の銀メダルを獲得しました。



男子日本代表



女子日本代表

2 参加国・地域

男子

グループA：日本、オーストラリア、メキシコ、イタリア

グループB：トルコ、イラン、イギリス

グループC：フランス、ウズベキスタン、ブラジル

グループD：ウクライナ、アメリカ、韓国

女子

日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ケニア

3 競技結果

男子

予選グループステージ

試合日程		会場	時間	試合結果				
グループ A	11月14日	スタジアム	12:00	日本	8	-	0	オーストラリア
グループ C			16:30	フランス	4	-	0	ウズベキスタン
グループ A		ピッチ1	12:00	メキシコ	0	-	5	イタリア
グループ B		ピッチ2	12:00	トルコ	2	-	1	イラン
グループ D		ピッチ3	16:30	ウクライナ	5	-	1	アメリカ
グループ B	11月16日	スタジアム	12:00	トルコ	1	-	1	イギリス
グループ A			16:30	日本	7	-	0	メキシコ
グループ C		ピッチ1	12:00	フランス	2	-	2	ブラジル
グループ A			16:30	イタリア	2	-	2	オーストラリア
グループ D		ピッチ3	16:30	韓国	2	-	4	アメリカ
グループ C	11月18日	スタジアム	12:00	ウズベキスタン	1	-	6	ブラジル
グループ D			16:30	韓国	1	-	7	ウクライナ
グループ A		ピッチ1	16:30	オーストラリア	1	-	1	メキシコ
グループ B		ピッチ2	12:00	イラン	0	-	0	イギリス
グループ A		ピッチ3	16:30	イタリア	0	-	0	日本

予選グループステージ順位

順位	国名	順位	国名	順位	国名	順位	国名
1	日本	1	トルコ	1	ブラジル	1	ウクライナ
2	イタリア	2	イギリス	2	フランス	2	アメリカ
3	オーストラリア	3	イラン	3	ウズベキスタン	3	韓国
4	メキシコ	4	-	4	-	4	-

決勝トーナメント

試合日程		会場	時間	試合結果				
準々決勝	11月20日	スタジアム	12:00	日本	2	-	1	イギリス
		ピッチ1	16:30	トルコ	3	-	1	イタリア
		ピッチ2	12:00	ブラジル	1	-	2	アメリカ
		ピッチ3	16:30	ウクライナ	0	-	2	フランス
準決勝	11月22日	スタジアム	12:00	日本	1	-	0	アメリカ
			16:30	トルコ	2	-	0	フランス
5~8位決定戦		ピッチ1	12:00	イギリス	3	-	1	ブラジル
		ピッチ3	16:30	イタリア	0	-	3	ウクライナ
7位決定戦	11月24日	ピッチ1	12:00	ブラジル	0	-	4	イタリア
5位決定戦		ピッチ3	12:00	イギリス	1	-	2	ウクライナ
3位決定戦			16:30	アメリカ	0	-	1	フランス
決勝戦	11月25日	スタジアム	17:30	日本	1	-	2	トルコ

最終順位

1位…トルコ / 2位…日本 / 3位…フランス / 4位…アメリカ / 5位…ウクライナ / 6位…イギリス / 7位…イタリア / 8位…ブラジル



予選グループステージ 日本 vs オーストラリア



予選グループステージ 日本 vs イタリア



準々決勝 日本 vs イギリス



決勝 日本 vs トルコ

大会を終えて



男子デフサッカー日本代表主将

松元 卓巳

11月14日～25日。この期間はデフサッカー日本代表を19年続けてきた中で忘れられない日々となりました。未だに鮮明に覚えているあの光景。満員のメインスタンドを目前にしての国歌斉唱。この景色を見たかったのだと。感情があふれてきました。

このような素晴らしい雰囲気を作ってくださった福島県の皆様には本当に感謝しております。ありがとうございます。日本開催が決定し、機運醸成から当日までとても盛り上げてくださり、デフリンピックの認知度向上にも繋がりました。サインエールやカードでの見える応援とサムライブルーの応援が日々一体感が増していき、学生さんたちもたくさんお越しください、ピッチに伝わるパワーは大きかったです。一過性にせず引き続き共によりしく願います。



男子デフサッカー日本代表副主将

古島 啓太

デフリンピックの日本・東京での開催が決定しましたが、正直知名度が低いことから、嬉しい気持ちの反面、不安な気持ちもありました。デフリンピックをどのように迎えるかは自分次第と言いつつも、PR活動も積極的に行ってきました。いざ当日を迎えてみると想像以上に沢山のサポーターが応援に駆けつけていただきました。一番感動したことは、サインエールとサッカー日本代表チャントの融合です。

健聴者ともう、また学生たちも協力し合い、目に見える応援は本当にパワーをいただきました。まさに新たな共生社会の実現の瞬間でした。結果が「準優勝」と悔しい気持ちもありますが、初予選突破・初銀メダルという結果を残すことができました。この結果は、日本のチカラです。また次のステップに向けて「世界一」を取れるように頑張っていきます。本当に沢山のご支援・サポートをありがとうございました。

予選グループステージ

試合日程		会場	時間	試合結果				
グループ	11月15日	スタジアム	12:00	日本	0	-	5	アメリカ
		ピッチ3	12:00	イギリス	1	-	0	オーストラリア
	11月17日	スタジアム	12:00	イギリス	0	-	6	日本
		ピッチ3	12:00	ケニア	0	-	3	アメリカ
	11月19日	スタジアム	12:00	アメリカ	12	-	0	オーストラリア
		ピッチ3	12:00	日本	3	-	0	ケニア
	11月21日	スタジアム	12:00	オーストラリア	1	-	3	日本
		ピッチ3	12:00	ケニア	0	-	3	イギリス
	11月23日	スタジアム	12:00	アメリカ	14	-	0	イギリス
		ピッチ3	12:00	オーストラリア	3	-	0	ケニア

※ケニアの出場辞退に伴い、ケニアとの試合は没収試合。成績はケニアが0点で敗北、相手チームが3点獲得し勝利となっている。

予選グループステージ順位

1位…アメリカ / 2位…日本 / 3位…イギリス / 4位…オーストラリア / 5位…ケニア

決勝トーナメント

試合日程		会場	時間	試合結果				
3位決定戦	11月25日	ピッチ3	10:00	イギリス	2	-	0	オーストラリア
決勝戦		スタジアム	12:00	アメリカ	4	-	0	日本

最終順位

1位…アメリカ / 2位…日本 / 3位…イギリス / 4位…オーストラリア



予選グループステージ 日本 vs アメリカ



予選グループステージ 日本 vs イギリス



予選グループステージ 日本 vs オーストラリア



決勝 日本 vs アメリカ

大会を終えて



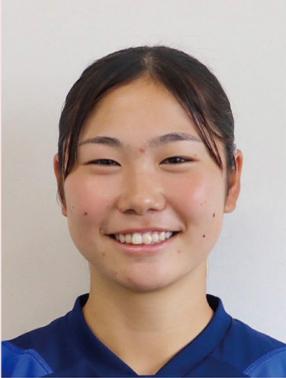
女子デフサッカー日本代表主将
伊東 美和

デフリンピックではたくさんの応援とご支援本当にありがとうございました。優勝を目指し戦いましたが、準優勝という悔しい結果で終わってしまいました。ですが、デフサッカー女子日本代表は史上初のメダル獲得となり歴史を変えることができました。

それは私たちの力だけでは成し遂げることはできませんでした。苦しい時間帯もたくさんありましたが、それでも最後まで戦い抜くことができたのは、皆様が熱い応援をし続けてくださったからです。決勝戦負けてしまったのにも関わらず挨拶の時には暖かい拍手と激励の言葉をありがとうございました。あの景色は一生忘れません。

私はキャプテンという立場でありながら脳震盪によりピッチに立つことはできませんでした。この悔しさを2027年W杯でぶつけたいと思います。W杯では必ず金メダルを獲得します。

これからも私の戦う姿で、障がいある、なし関係なく多くの方々に夢や希望を届けられるよう日々努力し続けます。



女子デフサッカー日本代表主将
高木 桜花

私は10番のユニフォームを着てキャプテンマークを巻き、日本で初めて開催されたデフリンピックの舞台、Jヴィレッジのピッチに立ちました。結果が求められる重圧の中で迎えた国歌斉唱の瞬間、観客席にいる多くのサポーターやベンチにいるスタッフ・仲間、対戦相手の姿が目に入り、これまで支えてくれた人たちの存在を強く感じました。多くの方々のおかげで、今私はこうしてここに立てていると実感し、感謝と幸せの気持ちでいっぱいになりました。耳がきこえない、きこえにくい選手でも、視線や拍手、表情から応援の力を確かに感じ取ることができると教えてもらいました。日本、そしてJヴィレッジでこの大会が開催されたことにより、デフスポーツの知名度向上に大きく繋がったと感じています。

3 - 福島県の取組

1 子ども観戦招待

観戦を希望する県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校をサッカー競技観戦に招待しました。参加者は事前に出前授業やオリジナルテキストでデフリンピックについて学習し、当日はサインエールや事前に作成したメッセージボードで応援しました。浜通りに来る機会を活用し、希望する学校には東日本大震災・原子力災害伝承館見学を始めとした震災学習も実施しました。

1 競技観戦

サッカー競技開催期間のうち、平日の11月14日、17日、18日、19日、20日、21日、25日にスタジアムで12時にキックオフする試合に県内の子どもたちを招待し、7日間で2,080名の方が観戦しました。

試合中は県聴覚障害者協会の根本和徳さんをリーダーに、サインエールで選手たちを応援して試合を盛り上げました。

観戦する子どもたち



スタジアムへの入場



試合後の選手との交流



手話の拍手とメッセージボードでの応援



サインエールでの応援





サインエールでの応援



サインエールをリードする根本さん



サッカー日本代表応援団と一緒にサインエールで応援



福島県聴覚障害者協会
根本 和徳

サインエールのリーダーとして参加して

デフサッカーの応援方法を模索する中、関係者との相談やリハーサルを重ね、手話でエールを送る「サインエール」の実施を決めました。小学生でも参加しやすいよう、テンポを緩やかにし、看板で合図を送るなど工夫を凝らしました。また、当日は手話に親しむ出前講座を行った小中学校等の児童生徒も応援に参加してくれました。その結果、小学生も全身で身体表現し、中学生によるウェーブも巻き起こるなど会場が一つになりました。この熱気は他の観戦者にも広がり、皆でサインエールを送り、試合後には選手が駆け寄りハイタッチを交わす感動的な光景に繋がりました。リーダーとして、この活動を通じ大変貴重な経験をさせていただきました。

2 事前学習

－ オリジナルテキストの配布

デフリンピックの基礎知識や手話による応援方法などを観戦前に学んでいただくために、観戦招待に参加する全ての学校へオリジナルテキストを配布しました。



オリジナルテキスト



－ 出前授業の実施

観戦招待参加校のうち希望する学校を対象に、きこえない講師と手話通訳士を派遣し、ろう者の文化やデフリンピック観戦に向けて試合の応援方法などを実践的に学ぶ出前授業を実施しました。

3 メッセージフラッグの作成

参加した子どもたちの応援メッセージを参加国の国旗にプリントして制作した、メッセージフラッグを全チームに贈呈し、試合中ベンチ裏に掲出していただきました。



2 オープニングセレモニー

2025年(令和7年)11月14日に東京2025デフリンピックサッカー競技の開幕を記念し、開幕戦となる日本戦の前に福島県主催のオープニングセレモニーをJヴィレッジスタジアムで行いました。



司会の若槻麻美さん



手話通訳する日本手話通訳員の渡辺勝さん(左)と国際手話通訳員の吉田愛さん(右)

HANDSIGNによるパフォーマンス

ダンスに手話を取り入れた2人組ダンスボーカルユニットの「HANDSIGN」とろう者を含むバックダンサー5人が試合前とハーフタイムにパフォーマンスを披露し、大いに盛り上がりました。



福島県知事、スペシャルサポーターによる挨拶

試合前には内堀知事、スペシャルサポーターの北澤豪さんが選手などの関係者や観客に向けて挨拶をしました。



手話を交え挨拶をする内堀知事



選手に向けてエールを送る北澤さん

オープニングセレモニーに出演して



ボーカル&手話パフォーマー

HANDSIGN

東京2025デフリンピックサッカー競技のオープニングセレモニーにおいて、デフダンサーの皆さんと共にパフォーマンスに参加できたことは、私たちHANDSIGNにとって非常に意義深い経験でした。音の有無を超え、身体表現やリズム、想いを共有することでひとつのステージが完成していく。その時間は、デフリンピックの理念を体感する瞬間でもありました。セレモニー後に観戦した試合では、会場に広がるサインエールに触れ、観る側も表現者として参加しているような一体感を感じました。福島の地で生まれたこの体験が、多様性を尊重し合う社会への確かな一歩として、これからも広がっていくことを願っています。



福島県聴覚障害者協会

吉田 愛

今大会、私は日本手話言語を国際手話へと通訳する国際手話通訳者を務めました。数年前から国際手話通訳の研修に励み、技術を磨いてきた成果をこの大舞台で発揮できたことは、私の人生で大きな財産です。

また、2024年から始まった福島県の手話に親しむ出前講座で県内各地の小中高を回り手話とデフリンピックについての講座を行ってきました。

手話とデフリンピックのことを知った子どもたちのキラキラした反応に直接触れられたことは、私にとって何よりのやりがいとなりました。

デフリンピック期間だけでなく、今後も県民にきこえない・きこえにくいことへの理解を深めてもらい、誰もが安心してつながれる未来を目指し、手話の魅力を伝え続けていきたいです。

3 ブルーインパルス

2025年(令和7年)11月15日の第1試合前にJヴィレッジ上空で航空自衛隊ブルーインパルスによる展示飛行が行われました。



4 サテライト開会式

2025年(令和7年)11月15日、Jヴィレッジ全天候型練習場で「サテライト開会式」が開催されました。サテライト開会式では東京体育館で行われた東京2025デフリンピック開会式の様子が中継され、中継開始前には選手団へのおもてなしとして、福島ならではの特別企画を開催しました。サテライト開会式には、選手団や関係者、一般観客合わせて約600名が参加しました。

ステージイベント

オープニングに霊山太鼓保存会遠征組の太鼓演奏パフォーマンスが行われ、各国の選手団を歓迎しました。

県聴覚障害者協会の吉田正勝会長、東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターの北澤豪さんが来賓挨拶を行い、選手団へ歓迎・激励の言葉を述べました。

福島県立いわき総合高等学校フラダンス部と聖光学院高等学校手話部の合同ステージでは、曲をフラダンスと手話で表現し披露しました。

ステージの最後はスパリゾートハワイアンズダンシングチームによる「フラガール〜虹を〜」を含むフラダンス5曲で締めくくりました。

県産食材を使用した料理の振る舞い

元サッカー日本代表帯同シェフの西芳照さん(南相馬市出身)が調理した「常磐ものつみれ入りマミーすいとん」を振る舞いました。

東京体育館で行われた開会式



司会の川俣郁美さん(左)清水愛香さん(右)



挨拶する高市早苗首相



日本選手団の行進



サテライト開会式



霊山太鼓保存会遠征組の太鼓演奏



県聴覚障害者協会 吉田会長(左)と国際手話通訳員の吉田愛さん(右)



東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーター北澤さん(中央)



いわき総合高等学校フラダンス部と聖光学院高等学校手話部のパフォーマンス



フラダンスに合わせて踊る選手団



スパリゾートハワイアンズダンスチームのパフォーマンス



開会式の中継を観覧する選手団





福島県聴覚障害者協会 会長
吉田 正勝

大会を終えて

福島県開催にあたり、多大なるご支援をいただいた県民の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今回、福島県において東京2025デフリンピックのサッカー競技を開催できたことを大変喜ばしく思います。また、国内外から福島県にお越しになった皆さまに本県の復興を感じてもらうとともに、デフリンピックを楽しんでほしいという思いで大会を迎えました。

大会が始まると県内外から多くの方々に応援にお越しいただき、大会をきっかけに生まれた新しい応援、サインエールで会場が一つになり、大変感動しました。デフリンピックの開催がきこえる人ときこえない人が共に歩む共生社会推進の大きな一歩につながったと思います。



聖光学院高等学校手話部 部長
齋藤 美羽

サテライト開会式に出演して

私たちは9月から講師の先生をお招きし、「アロハユー」の手話歌を日本手話と国際手話の2つのグループに分かれて練習してきました。歌に合わせて手話を表現することは想像以上に難しく、部員同士で教え合ったり、講師の先生からアドバイスをいただいたりしながら取り組みました。

開会式では、いわき総合高校フラダンス部の皆さんと共に出演しました。多くの国の選手の方々が集まる中、手話でコミュニケーションを取る姿を見て、手話が世界共通の言語であることを改めて実感しました。とても緊張しましたが、選手の皆さんが私たちの手話を真似しながら音楽に乗って楽しんでくださり、温かい気持ちになったことが印象に残っています。

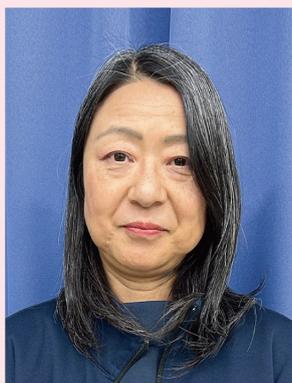
5 伝承館直通シャトルバス

国内外から福島を訪れる観客や選手に福島の魅力と復興の姿を体感してもらうため、Jヴィレッジと東日本大震災・原子力災害伝承館を結ぶシャトルバスを運行しました。伝承館が休館日である11月18日、25日を除く、2025年(令和7年)11月14日から24日の10日間で延べ483人の方が利用しました。

また、デフリンピックの開催に合わせて、14日と24日の2日間、伝承館の震災語り部講話が手話通訳付きで初めて実施されました。



Jヴィレッジスタジアム前乗降所



福島県聴覚障害者協会

滝田 真紀

伝承館語り部講話の手話通訳として参加して

東日本大震災という誰もが知っている話を「伝承館」で、そして語り部の気持ちに添って手話で伝えるということにとっても責任を感じました。「地震の揺れ」「津波の悲惨さ」「家族を思いながら介護職員として働く気持ち」「今までそこにあったものが消えてしまった虚しさ」そして「原発事故により故郷を失う悲しさ」をどう表現したら聞き手に伝わるのか…。その場で聞き、表現しなければならないことにとまどいながらも、語り部の声のトーンや抑揚にあわせ、手だけでなく、表情や体の動きにも気を配り手話表現しました。参加している多くのろう者が、語り手の「姿」と私の「手」をじっと見つめ、所々でうなずいてくれる姿に伝えたいという気持ちがこみ上げてきました。

“語り部の思いを伝える”それは普段の手話通訳とは異なる、不思議で、そして貴重な体験でした。

6 おもてなしエリア

2025年(令和7年)11月14日から25日まで、福島県や地元市町村の特産品や名所などの魅力を発信する「おもてなしエリア」を設置しました。福島県や市町村のPRブース、復興状況や観光名所等のパネル展示、名産品の販売、キッチンカーの出店等を実施しました。

14日には全日本ろうあ連盟の東京2025デフリンピック大会PRカーとメダルのレプリカの展示を行いました。



スタジアム前のおもてなしエリア



6番ピッチ前のおもてなしエリア



スタジアム前のキッチンカー



11月14日に来場した大会PRカー

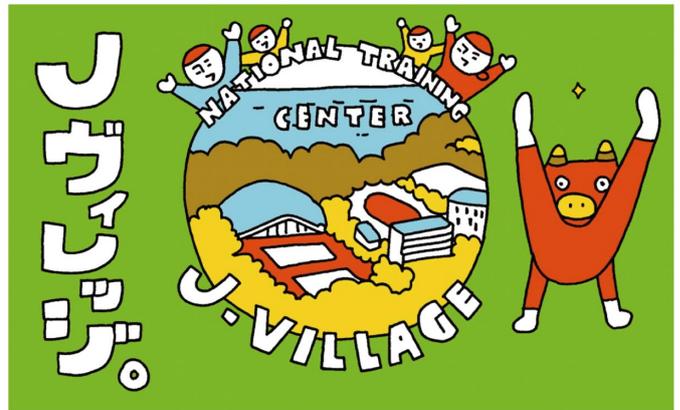
10 会場モニターを活用した福島県PR

2025年(令和7年)11月14日から25日まで、会場に設置されたモニターにおいて、ベコ太郎の市町村魅力発信ショート動画「もっと知って ふくしま!」を放映しました。

この他、東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターの北澤豪さん出演のプロモーション動画を放映し、試合への期待感を高めました。



もっと知ってふくしま! Jヴィレッジ編



11 エスコートキッズ

試合前に選手と子どもたちが一緒に入場する「エスコートキッズ」が実施されました。福島県は参加者募集の協力をしました。

対象試合及び参加者

日時	時間	参加者	人数
11月14日(金)12:00～	男子/日本 vs オーストラリア	福島県立聴覚支援学校	2名
		いわき市立久之浜第二小学校	4名
		平田村立小平小学校	15名
11月15日(土)12:00～	女子/日本vsアメリカ	広野町立広野小学校	6名
		檜葉町立檜葉小学校	3名
11月25日(火)12:00～	女子/決勝戦 日本vsアメリカ	いわき市立磐崎小学校	8名
		二本松市立杉田小学校	7名
		福島市立福島第三小学校	4名
11月25日(火)17:30～	男子/決勝戦 日本vsトルコ	Jヴィレッジサッカークラブ	22名



男子/日本 vs オーストラリアのエスコートキッズ





女子/日本 vs アメリカのエスコートキッズ



福島県立聴覚支援学校 6年

佐藤 梯智

エスコートキッズに参加して

ぼくは、エスコートキッズに参加して、貴重な経験をすることができました。

スタジアムには、たくさんの人っていて、オーストラリアの選手はどんな人だろうと緊張していました。でも、とても優しく、あいさつの代わりに笑顔でハイタッチをしてくれてとても安心しました。

言葉で話ではできなかったけど、笑顔で関わることができました。年れいがちがっても、国がちがっても、言葉がちがっても、笑顔の力は世界共通だと思いました。

12 表彰式における副賞ベアラー

2025年(令和7年)11月25日に、東京2025デフリンピックサッカー競技の表彰式が行われ、福島県立会津農林高等学校の生徒が表彰式の補助役である「副賞ベアラー」を務めました。



女子表彰式



男子表彰式



福島県立会津農林高等学校
発酵チーム 地域創生科 3年

皆川 みづき

副賞ベアラーとして活動して

デフリンピックサッカー競技の表彰式で選手誘導と副賞ベアラーとして参加させていただきました。

会場で初めてデフの選手たちの迫力ある試合を拝見し感動しました。多くの観衆者と一緒にサインエールで一生懸命に応援しました。

また、表彰式は緊張しましたが、日本代表の選手には補食の提供などでも応援してきたこともあり、男女で銀メダルを獲得されたことがとても嬉しかったです。

デフリンピックという大きな大会に関わることができ、とても貴重な経験になりました。

13 保健師派遣

大会期間中の傷病者発生時等に速やかに対応するため、競技会場内に救護所を設置するにあたり、都スポーツ文化事業団からの依頼により2025年(令和7年)11月12日～25日までの14日間にわたり延べ42名の福島県の保健師を派遣しました。

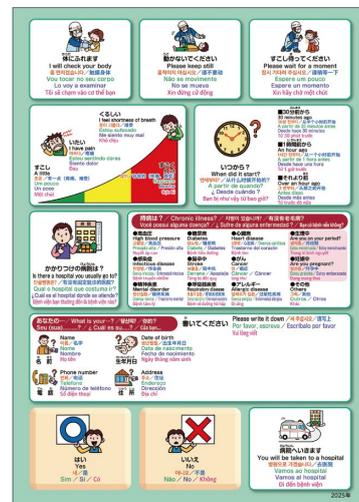
救護所では医師、メディカルリエゾン、救急救命士等と緊密に連携し、想定外の事案にも的確に対応しました。



多面ピッチ内に設置された救護所



きこえない傷病者に対応する際のコミュニケーションボード



14 高円宮妃殿下競技御覧(お成り)

2025年(令和7年)11月25日に、高円宮妃殿下が東京2025デフリンピックサッカー競技を御覧になるため、福島県にお成りになりました。妃殿下がJヴィレッジを御訪問されるのは、2019年(平成31年)4月のJヴィレッジグランドオープン記念式典への御臨席以来であり、その際、震災後、原発事故対応の前線基地となったJヴィレッジが福島復興のシンボルとして全面再開した姿を御覧いただきました。

Jヴィレッジに御着の際には、内堀知事をはじめ国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)関係者らがお出迎えし、その後、知事主催御昼食会へ御臨席いただきました。

Jヴィレッジスタジアムでは、女子決勝戦の日本vsアメリカを御覧後、表彰式にも御臨席いただくとともに、女子日本代表監督及び選手と御懇談されました。



Jヴィレッジセンターハウス前で高円宮妃殿下をお出迎え



Jヴィレッジスタジアムで競技御覧



女子日本代表監督と選手との御懇談





第3章

主催団体等との連携



1 - 東京都との連携

1 カウントダウンモニュメントの設置

東京都では、競技開催地をオリジナルモニュメントが巡る「東京2025デフリンピックカウントダウンツアー」を実施し、福島県では2025年(令和7年)8月9日に開催した100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」で、うすい百貨店(郡山市)に展示しました。来場者に、東京2025デフリンピック開幕に向けて思いを込めて折り鶴を折っていただき、モニュメントの桜に入れていただきました。



カウントダウンモニュメント



折り鶴を投入する参加者

2 広報資材の活用

東京都から、広報資材として東京2025デフリンピック大会エンブレム、デフアスリート、東京2025デフリンピック応援アンバサダーのポスターを提供いただき、県内各種施設やイベントなどで掲出しました。また、チラシ、マグネット・缶バッジ、ステッカー等の配布物も提供いただき、様々な機会を捉えて配布し、認知度向上に活用しました。



県ゆかりの代表選手による県文化スポーツ局長表敬で掲出した東京都提供のポスター



ブース出展等で活用

3 東京都への子ども観戦招待

東京都で2025年(令和7年)に開催された2つの国際スポーツ大会「東京2025世界陸上」及び「東京2025デフリンピック」において、被災地(岩手県・宮城県・福島県・石川県)の児童・生徒を東京会場での観戦に御招待いただきました。

世界陸上はトップアスリートの熱戦を間近で見ることができる絶好の機会であり、デフリンピックは障がいの有無にかかわらず互いに尊重し合う共生社会への理解を深める大会であることから、両大会の観戦は子どもたちにとってまたとない経験となり、多くの学びを得る貴重な機会となりました。

東京2025世界陸上

東京2025世界陸上は2025年(令和7年)9月13日から21日まで国立競技場(東京都新宿区)等で開催され、このうち、9月14日に行われた男女100m決勝を含む夕方から夜にかけての競技を、県内の陸上に取り組んでいる高校生及び引率者35名が観戦しました。

東京2025デフリンピック

2025年(令和7年)11月16日に、福島県立聴覚支援学校の児童・生徒とその保護者32名が、県ゆかりの選手が出場する男子バスケットボール競技を観戦しました。手書きの応援ボードとサインエールで、選手の皆さんに声援を届けました。



応援ボードとサインエールによる応援



4 デフリンピックスクエアでの福島県PR

2025年(令和7年)11月15日から26日まで、大会運営の拠点とイベント・交流エリアを合わせた「デフリンピックスクエア」が国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)に開設されました。デフリンピックスクエア内では、東京都が被災地(岩手県・宮城県・福島県・石川県)のPRブースを設置し、被災地の名所や工芸品を紹介するパネル展示のほか、工芸品のワークショップや県産品の試食などのPRを行いました。



デフリンピックスクエアに設置された福島県のPRブース

5 世界陸上での福島県PR

東日本大震災からの復興支援への御礼と復興状況のPR及び開催国の魅力を発信するため、東京都の協力により2025年(令和7年)9月19日から21日まで、国立競技場(東京都新宿区)VIPラウンジにおいて被災地(岩手県・宮城県・福島県)の日本酒等を提供しました。

2 - 東京都スポーツ文化事業団との連携

1 さくらキャンペーン

都スポーツ文化事業団は、東京2025デフリンピックの大会メインカラーである桜色を活用した「さくらキャンペーン」を、開催半年前の2025年(令和7年)3月17日から30日まで実施し、東京都庁や東京体育館(東京都渋谷区)等の会場施設のライトアップやSNS投稿企画等を通じて、大会開催に向けて盛り上げを図りました。

本県においてもこの取組に賛同し、東北電力グループ協力のもと、県内4か所の無線鉄塔・発電所煙突を桜色にライトアップしました。



福島電力センター



会津若松電力センター



原町火力発電所



いわき電力センター

2 装飾

都スポーツ文化事業団は、大会カラーの桜色を基調とした競技会場を彩る装飾を制作し、2025年(令和7年)11月14日から25日までJヴィレッジを装飾しました。「フォトスポットバナー」には東京2025デフリンピックの応援隊であるキビタンとベコ太郎が使用されました。

本県においても大会と統一感を持たせながらサッカー競技開催の機運醸成を図るため、桜のデザインを取り入れた広報資材を制作し、活用しました。



会場装飾のバナー



Jヴィレッジに設置されたフォトスポットバナー



都スポーツ文化事業団制作の会場装飾ののぼり



福島県制作ののぼり

3 - 全日本ろうあ連盟・福島県聴覚障害者協会との連携

1 全日本ろうあ連盟理事長の知事表敬

東京2025デフリンピックの開催1年前の2024年(令和6年)11月1日に、全日本ろうあ連盟の石橋大吾理事長が、サッカー競技がJヴィレッジで実施されることの報告のため、内堀知事を表敬訪問しました。石橋理事長からは「デフリンピック開催は共生社会の実現につながるきっかけになる」と大会の意義についてお話しいただきました。内堀知事からは東京2025デフリンピック大会エンブレムが描かれた白河だるまを贈呈し、「白色のだるまには目標達成の意味が込められている。デフリンピックの成功を祈念するとともに、県内での認知度向上のため機運醸成に取り組んでいきたい」とお話ししました。

表敬訪問には、全日本ろうあ連盟の久松三二事務局長兼デフリンピック運営委員会委員長、清水愛香青年部長、県聴覚障害者協会の吉田正勝会長、小林靖事務局長が同席しました。



内堀知事(左)から石橋理事長(右)へ大会エンブレム入りの白河だるまの贈呈



左から吉田会長、久松事務局長、内堀理事、石橋理事長、清水部長、小林事務局長

2 東京2025デフリンピック全国キャラバン活動での協力

全日本ろうあ連盟は「東京2025デフリンピック全国キャラバン活動」として2025年(令和7年)6月から11月までキャラバンカーの巡回を実施し、福島県内では県聴覚障害者協会が主体となり大会100日前の8月と11月の大会期間中に県内を巡回しました。

福島県内の巡回

- 8月5日…郡山市役所、宝来屋ボンズアリーナ
- 8月6日…Jヴィレッジ、広野町公民館、櫛葉町役場
- 8月7日…会津若松市役所、喜多方市役所
- 8月8日…アクアマリンふくしま、いわき市役所
- 8月9日…うすい百貨店(東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」)
- 8月12日…福島駅東口駅前広場
- 11月14日…Jヴィレッジ(東京2025デフリンピック)



8月6日 Jヴィレッジ



8月6日 広野町公民館



8月6日 櫛葉町役場



8月9日 うすい百貨店



8月12日 福島駅東口駅前広場



11月14日 Jヴィレッジ

2 福島県聴覚障害者協会との各種企画における協力

機運醸成イベントや子ども観戦招待の事前学習、手話に親しむ出前講座をはじめとする福島県主催企画の実施にあたり、県聴覚障害者協会から情報保障の技術的助言、手話通訳士の派遣、手話体験ブース等で協力いただきました。



音声を字幕で表示したモニターによる情報保障



ステージ上で音声を通訳する手話通訳士(左)



登壇者の手話を読み取り音声にする手話通訳士(左)と、音声を手話にする手話通訳士(右)



手話体験



指文字スタンプで名前の指文字を憶える体験



第4章

福島県ゆかりの日本選手団



えち ぜん ゆう き
越前 由喜

1999年(平成11年)1月27日生まれ
西郷村出身
男子バスケットボール

日本代表に選ばれて約10年、やっと夢のデフリンピック出場が叶いました。初出場が100周年そして母国開催というこれ以上ない光栄な経験でした。主将を担った今大会は、これまでの世界選手権とは比べものにならない雰囲気と重責を感じた大会でした。予選突破まであと一歩及ばずとても悔しい結果でしたが、世界ランキング5位のアルゼンチンから1勝できたことで世界に日本デフバスケの強さを証明できた気がします。そして、デフリンピックを通して福島県民のみなさんに出会えたこと、応援していただいたことが私のエネルギーの源となりました。今大会の価値を次世代の子どもたちへ引き継ぎ、デフリンピアンとしての責任を果たしていきたいです。



やま だ ひろ き
山田 洋貴

1989年(平成元年)9月7日生まれ
いわき市出身
男子バスケットボール

東京2025デフリンピックを通じて、デフスポーツには人と人をつなげる大きな力があることを強く実感しました。福島県では関連イベントや交流の機会を通じ、多くの県民の皆さまと出会い、デフスポーツへの理解や関心が広がっていく手応えを感じました。競技の結果だけでなく、共に時間を過ごし、想いを共有できたことこそが、この大会の大きな価値だと感じています。これらの経験が福島から次世代へ受け継がれ、聞こえない子どもたちが夢に挑戦できる社会づくりにつながることを願っています。今後もこの大会のレガシーを胸に、競技と普及活動に取り組んでいきたいです。



がもう かず ま
蒲生 和麻

1994年(平成)4月24日生まれ
郡山市出身
男子柔道 73kg 級 個人【銅メダル】
団体【銅メダル】

デフリンピックへの出場は、私にとって競技者としての挑戦であると同時に、支えてくださった多くの方々への感謝を改めて感じる機会となりました。特に地元であり震災地でもある福島県からの応援は大きな力となり、厳しい鍛錬の日々を乗り越える心の支えとなりました。大会では、世界の選手たちと競い合う中で、自身の可能性や課題を見つめ直す貴重な経験を得ることができました。この経験を糧に、今後のデフ柔道および福島県の競技力向上に努めると同時に、福島県のスポーツ振興に少しでも貢献できればと考えています。私にしかできない、私だからできることを福島から世界へ、共生と挑戦のメッセージを発信し続けていきます。改めまして応援してくださった皆さまに心より感謝申し上げます。



やま だ なお と
山田 尚人

福島市出身
(一社)福島県聴覚障害者協会副会長
本部 総務役員

「日本で初めてのデフリンピックを、最高の形で成功させたい」 2022年9月の開催決定以来、その一心で突き進んできました。特に力を入れて取り組んだのは、競技団体の設立や選手の発掘、そしてデフスポーツサポーターの輪を広げることでした。すべては、デフスポーツを取り巻く環境を根底から変えるための挑戦でした。

日本選手団への期待が日に日に高まり、迎えた大会本番。会場を埋め尽くした33万人の大歓声は、選手たちにとって最高の舞台となりました。その結果、395名の選手団が手にした51個のメダルは、日本のデフスポーツ史に刻まれる結果となりました。

しかし、ここがゴールではありません。この大会で蒔いた種を、これからのレガシーとして育てていく必要があります。きこえる・きこえないに関わらず、誰もが自分らしく輝ける社会へ。特に、未来を担う子どもたちが「公平なスタートライン」でスポーツを楽しみ、夢を描ける環境を整えるために、これからも「共生社会の実現に向けて」歩みを止めることなく取り組んでまいります。



ほ し な と し き
保科 隼希

福島市出身
陸上 日本手話言語通訳者

陸上競技日本選手団の専属手話通訳として選手と共に大会に臨みました。過去最多となるメダル獲得で喜びを見いだした選手もいれば、悔しさを胸に次なる挑戦へと走り出している選手もいます。

そうした挑戦を継続的に後押ししていくためには、選手やスタッフだけでなく、観客、運営、ボランティア、メディアなど大会関係者が当事者として関わり、この大会を一過性のイベントで終わらせない意識を持つことが重要だと感じました。

本大会の経験を通じて「あたりまえ」とは何かを改めて見つめ直す機会を得ました。ろう者が社会の中でより一層活躍し、その姿を聴者も共に楽しむことができる社会、ひいてはそのような社会を福島県から築いていく担い手の一人でありたいと考えています。

大会開催にあたり多大なるご尽力を賜りましたすべての皆様に心より感謝と敬意を表するとともに、デフスポーツのさらなる発展を祈念いたします。



い と う ま さ る
伊藤 丈

郡山市出身
ボウリング コーチ

東京2025デフリンピックにおいて、ボウリング日本代表コーチとして初めて大会に帯同いたしました。日本開催という大きな期待とプレッシャーの中、選手全員が懸命に競技へ挑みましたが、結果としては全7種目中3種目での入賞にとどまり、目標として掲げた「ボウリング競技としての初のメダル獲得」には届きませんでした。

日本選手団の太田陽介団長からは、3種目での入賞について一定の評価をいただきました。しかしながら、メダル獲得を目指して準備を進めてきた大会で結果を残せなかったことは、コーチとして大きな悔しさが残るものとなりました。

また、個々の選手の技術レベルは確実に向上しておりますが、チームとして「勝てる体制」を十分に構築しきれなかったことが敗因であり、私自身の力不足を痛感しております。2年前の世界選手権では女子チームが銀メダルを獲得したものの、今大会の結果は、他国がデフリンピックに向けて大幅な強化を進めている現状を浮き彫りにしたものと感じました。

選手たちには、デフリンピックという最高の舞台に立てた喜び、応援してくださった方々への感謝、そして今回味わった悔しさを糧に、4年後のギリシャ・アテネ大会を目指し取り組むよう伝えました。

私自身も、今大会での反省点を真摯に受け止め、引き続き強化活動に尽力し、次回大会こそボウリング競技初のメダル獲得を実現できるよう努めてまいります。



第5章

競技開催後の取組



1 バリアフリー公演

2025年(令和7年)12月19日に、いわき芸術文化交流館アリオス(いわき市)において、みんなで一緒に舞台を楽しめるように、舞台上での手話通訳、セリフの字幕表示などの鑑賞サポートを取り入れた公演「バリアフリー公演」が(公財)福島県文化振興財団主催で開催されました。デフリンピック関連企画として、開演前にバスケットボール競技日本代表山田洋貴選手(いわき市出身)が登場し、トークイベントを行いました。山田選手からは、デフリンピックを通し、「無音の世界でも、誰もが楽しめて、心から熱くなれる」経験をしたことについてお話しいただきました。また、デフリンピックの写真展や手話指文字スタンプで名前カードづくり体験も行われました。



登壇する山田選手(左)



山田選手(中央)とバリアフリー公演出演者

2 ボッチャふくしまカップ2025

2025年(令和7年)12月21日、円谷幸吉メモリアルアリーナ(須賀川市)にて、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず誰でも参加できるボッチャ競技の第2回福島県大会「ボッチャふくしまカップ2025」が開催されました。

併催イベントとして、「東京2025デフリンピックトークショー」を開催し、柔道競技蒲生和麻選手(郡山市出身)、バスケットボール競技越前由喜選手(西郷村出身)、山田洋貴選手(いわき市出身)からデフリンピックに出場しての振り返りや、改めて感じたデフスポーツの魅力、応援して下さった福島県民への思いなどについてお話しいただきました。



(右から)山田選手、越前選手、蒲生選手



キبطタン、ペコ太郎と選手

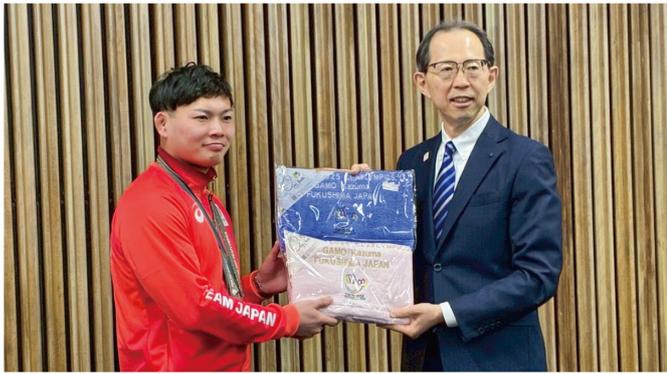
3 知事表敬

2026年(令和8年)1月26日、東京2025デフリンピックに出場した柔道競技蒲生和麻選手(郡山市出身)、バスケットボール競技越前由喜選手(西郷村出身)、山田洋貴選手(いわき市出身)が、内堀知事へ大会出場報告を行うため福島県庁を訪れ、県聴覚障害者協会の吉田正勝会長が同席しました。

内堀知事は、訪問した皆さんを手話で歓迎するとともに、選手の活躍を称え、東京2025大会エンブレムと選手名が刺繍されたタオルを贈呈しました。



選手と内堀知事



内堀知事から選手へ記念品の贈呈



デフリンピックの手話で記念撮影

4 記念品の展示

2026年(令和8年)3月1日に福島トヨタクラウンアリーナ(福島市)で開催された第1回福島県ろうあ者大会において、東京2025デフリンピックのメダルをはじめとした記念品展示を行いました。大会には、柔道競技蒲生和麻選手(郡山市出身)、バスケットボール競技越前由喜選手(西郷村出身)、山田洋貴選手(いわき市出身)が出席し、デフリンピック出場報告が行われるとともに、陸上競技手話通訳士保科隼希さん(福島市出身)による講演会が行われました。記念品は、今後開催されるデフリンピックに関するイベントや県内のスポーツイベント等で展示予定です。



メダル



大会報告で出席した選手

5 大会ハイライト動画の制作

大会後もデフスポーツやデフアスリートの魅力を継続して周知するため、競技の様子や選手のインタビューを収録した「東京2025デフリンピックふくしまハイライト動画」を制作し、2026年(令和8年)3月にYouTube福島県公式チャンネルで配信しました。



ぼくたちが頑張っていきたいなと思っています
頑張ろう
山田選手(左)と越前選手(右)のインタビュー



なかなかない経験をさせていただいて本当に感謝しています
蒲生選手のインタビュー

資料編

1 東京2025デフリンピック庁内連携会議

設置要綱

(設置)

第1条 令和7年(2025年)に本県(Jヴィレッジ)でサッカー競技が開催される「東京2025デフリンピック」(以下「大会」という。)に向け、大会に向けた準備状況等の情報共有及び大会に関連した企画立案を図る庁内の連携体制を構築し、全庁一体となって大会を推進するため、東京2025デフリンピック庁内連携会議(以下「連携会議」という。)を設置する。

(組織)

第2条 連携会議は、座長、副座長及び構成員をもって組織する。

座長には企画調整部文化スポーツ局次長を、副座長には企画調整部文化スポーツ局スポーツ課長をもって充てる。

構成員は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。

4 座長は、連携会議を統括する。

5 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又はかけたときは、その職務を代理する。

(所掌事務)

第3条 連携会議は、次に掲げる事務を所掌する。

大会の開催に関する庁内の連携に関すること。

大会の開催に必要な各種情報の共有及び交換に関すること。

大会に関する本県独自のおもてなし等の関連施策の企画立案及び調整に関すること。

その他大会の開催に関し必要な事項に関すること。

(会議)

第4条 会議は、座長が招集する。

2 座長は、必要があると認めるときは、構成員以外の職員又は関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

第5条 連携会議の事務局を企画調整部文化スポーツ局スポーツ課に置き、庶務等を処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、連携会議の運営について必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年5月15日から施行する。

附則

この要綱は、令和6年9月2日から施行する。

附則

この要綱は、令和7年2月6日から施行する。

別表(第2条関係)

区 分	職 名																						
座 長	企画調整部文化スポーツ局次長																						
副 座 長	企画調整部文化スポーツ局スポーツ課長																						
構 成 員	<table border="0"> <tr> <td>広報課長</td> <td>県産品振興戦略課長</td> </tr> <tr> <td>風評・風化戦略室長</td> <td>農林企画課長</td> </tr> <tr> <td>地域振興課長</td> <td>環境保全農業課長</td> </tr> <tr> <td>エネルギー課長</td> <td>農産物流通課長</td> </tr> <tr> <td>文化振興課長</td> <td>病院局病院経営課長</td> </tr> <tr> <td>生涯学習課長</td> <td>教育庁義務教育課</td> </tr> <tr> <td>国際課長</td> <td>教育庁高校教育課</td> </tr> <tr> <td>障がい福祉課長</td> <td>教育庁特別支援教育課長</td> </tr> <tr> <td>健康づくり推進課長</td> <td>教育庁健康教育課長</td> </tr> <tr> <td>地域医療課長</td> <td>警察本部警備部警備課長</td> </tr> <tr> <td>観光交流課長</td> <td></td> </tr> </table>	広報課長	県産品振興戦略課長	風評・風化戦略室長	農林企画課長	地域振興課長	環境保全農業課長	エネルギー課長	農産物流通課長	文化振興課長	病院局病院経営課長	生涯学習課長	教育庁義務教育課	国際課長	教育庁高校教育課	障がい福祉課長	教育庁特別支援教育課長	健康づくり推進課長	教育庁健康教育課長	地域医療課長	警察本部警備部警備課長	観光交流課長	
広報課長	県産品振興戦略課長																						
風評・風化戦略室長	農林企画課長																						
地域振興課長	環境保全農業課長																						
エネルギー課長	農産物流通課長																						
文化振興課長	病院局病院経営課長																						
生涯学習課長	教育庁義務教育課																						
国際課長	教育庁高校教育課																						
障がい福祉課長	教育庁特別支援教育課長																						
健康づくり推進課長	教育庁健康教育課長																						
地域医療課長	警察本部警備部警備課長																						
観光交流課長																							

2 福島県の開催準備組織の変遷

－ 2022年度(令和4年度)

文化スポーツ局スポーツ課(障がい者スポーツ担当が兼務) 3名
課長 主幹 副主査

－ 2023年度(令和5年度)

文化スポーツ局スポーツ課(障がい者スポーツ担当が兼務) 4名
課長 主幹 副主査 2名

－ 2024年度(令和6年度)

文化スポーツ局スポーツ課 6名
課長 デフリンピック担当主幹 デフリンピック担当(主任主査、副主査2名、主事)
東京都スポーツ文化事業団派遣 1名
副主査

－ 2025年度(令和7年度)

文化スポーツ局スポーツ課 7名
課長 デフリンピック担当主幹 デフリンピック担当(主任主査、副主査2名、主事2名)
東京都スポーツ文化事業団派遣 2名
副主査、主事

※人数は各年度末現在。2025年度(令和7年度)は大会当日現在。

3 年表

2011年(平成23年)

3月11日 東日本大震災の発生。 第1章 2-1

2018年(平成30年)

6月10日 第66回全国ろうあ者大会(大阪府大阪市)において、「デフリンピック日本招致にかかわる特別決議」が承認され、招致活動がスタート。 第1章 2-2

2020年(令和2年)

10月24日 全日本ろうあ連盟評議員会において、「デフリンピック準備室開設」議案が承認され、招致活動が本格化。 第1章 2-2

2021年(令和3年)

7月21日～22日 県営あづま球場(福島市)で東京オリンピックソフトボール競技の開催。 第1章 2-1

7月28日 県営あづま球場(福島市)で東京オリンピック野球競技の開催。 第1章 2-1

2022年(令和4年)

5月25日 「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律(令和4年法律第50号)」(いわゆる、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法)が施行。

6月1日 令和4年第2回東京都議会定例会 知事所信表明において、小池百合子都知事が、「都としてもそれぞれの大会の招致主体たる団体を、国や関係者と密に連携しながら積極的に応援していく」と表明。

9月8日 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が、2025年デフリンピックへの正式立候補を表明するとともに開催計画(案)を公表。同計画で、サッカー競技をJヴィレッジで実施することを発表。 第1章 2-2

9月9日～10日 国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)総会が、オーストリア ウィーンにて開催。2025デフリンピック開催地を決める投票が行われ、東京都が選出される。 第1章 2-2

2023年(令和5年)

9月3日 東京2025デフリンピック大会エンブレムが決定。 第1章 2-3

10月6日 東京2025デフリンピック応援アンバサダーに、長濱ねるさん、川俣郁美さん、KIKIの3名が決定。 第1章 2-6

11月12日 東京2025デフリンピック開催2年前イベント「デフリンピックフェスティバル」をいわきFCパーク(いわき市)で開催。 第1章 3-1

11月16日 デフサッカー体験教室を福島県立聴覚支援学校(郡山市)で開催。

2024年(令和6年)

1月17日 東京2025デフリンピック応援アンバサダーの4人目に、朝原宣治さんの就任が決定。 第1章 2-6

1月31日 デフサッカー体験教室をJヴィレッジで開催(広野町立広野中学校の生徒が対象)

2月4日	Jヴィレッジで開催された「ふくしま浜通り復興スポーツフェス」に、デフリンピックPRブースを出展。	
2月16日	第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025に係る閣議了解。	
2月21日	第20回冬季デフリンピック競技大会(令和6年3月2日～12日、トルコ)にカーリング競技男子日本代表選手として出場する福島県ゆかりの山口翔大選手(郡山市在住)が福島県文化スポーツ局長を表敬訪問。	
5月4日～5日	Jヴィレッジで開催された「2024東京国際ユース(U-14)サッカー大会」において、デフサッカー体験コーナーを出展。	
5月15日	令和6年度第1回 東京2025デフリンピック庁内連携会議。	資料編1
6月29日	郷土の森総合体育館(東京都府中市)で開催された「東京都デフリンピックチャレンジトライアウト開会式」において東京2025デフリンピック応援隊をお披露目。	第1章 3-2
7月7日	「東京2025デフリンピックサッカー競技福島県開催決定記念手話応援デー福島県スペシャルマッチ」をとうほう・みんなのスタジアム(福島市)で開催。	第1章 3-10
9月2日	令和6年度第2回 東京2025デフリンピック庁内連携会議。	資料編1
9月12日	アジア太平洋ろう者バスケットボール選手権大会2024(令和6年9月21日～29日、オーストラリア)に日本代表として出場する越前由喜選手(西郷村出身)が福島県文化スポーツ局長を表敬訪問。	
10月6日	郡山市労働福祉会館(郡山市)で開催された県内四団体合同研修会(県聴覚障害者協会、福島県手話サークル連絡協議会、福島県手話通訳問題研究会、福島県手話通訳士協会)において、「デフリンピック競技開催に向けた福島県の取組状況」について説明。	
11月1日	全日本ろうあ連盟 石橋大吾理事長が内堀知事を表敬訪問。	第3章 3-1
11月10日	「東京 2025デフリンピック福島県開催手話応援デー」をハワイアンズスタジアムいわき(いわき市)で開催。	第1章 3-10
11月13日	「第9回2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」において、Jヴィレッジで開催されるサッカー競技が全競技に先駆け2025年(令和7年)11月14日からスタートすることが決定。	第1章 2-5
11月14日～17日	Jヴィレッジにおいて、第5回デフサッカー女子日本代表候補合宿が開催。	
11月15日	東京2025デフリンピックの入賞メダルのデザインが、全国の小学生、中学生、高校生の投票により決定。	第1章 2-4
11月16日～17日	Jヴィレッジにおいて、第19回全日本男子ろう者サッカー選手権大会が開催。	
11月17日	Jヴィレッジにおいて、東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」を開催。	第1章 3-3
11月30日～12月8日	マレーシアで開催された、「第10回アジア太平洋ろう者競技大会」において、デフサッカー男子日本代表が、金メダルを獲得。	
12月1日	福島トヨタクラウンアリーナ(福島市)で開催された「ボッチャふくしまカップ2024」において、デフリンピックPRブースを出展。	
12月17日～27日	東京2025デフリンピック開催333日前を記念して、福島県庁2階の渡り廊下にてパネル展を開催。	

2025年(令和7年)

1月8日	福島県から県聴覚障害者協会へ、デフリンピック大会エンブレムを描いたオリジナルの白河だるまを贈呈。	
1月9日～28日	うすい百貨店(郡山市)において、東京2025デフリンピックに関するポスター展示とサッカー競技プロモーション動画等の放映を実施。	第1章 3-12
2月1日	円谷幸吉メモリアルアリーナ(須賀川市)で開催された福島ファイヤーボンズ公式戦において、東京2025デフリンピック300日前カウントダウンイベントを開催。	第1章 3-4
2月6日	令和6年度第3回 東京2025デフリンピック庁内連携会議。	資料編1
3月15日	ベルサール東京日本橋(東京都中央区)で開催された第8回「がんばっぺ福島!応援の集い」で東京2025デフリンピックをPR。	第1章 3-5
3月17日～30日	「東京2025デフリンピックさくらキャンペーン～大会メインカラーは桜色!みんなで盛り上げよう～」を県内でも実施。	第3章 2-1
4月2日	デフサッカー男子日本代表とJFLクリアソン新宿によるエキシビジョンマッチが国立競技場(東京都新宿区)で開催。	
4月28日	東京2025デフリンピックサッカー競技開催200日前を記念し、福島県庁舎及び敷地内に横断幕やのぼりを設置。	第1章 3-6
4月28日～5月27日	福島県庁の県民ホールにおいて、デフリンピックのパネル展示を実施。	第1章 3-6
5月29日	「世界ろう者カーリング選手権大会2025(令和7年4月22日～5月4日、アメリカ)」の男子4人制競技に出場し、銅メダルを獲得した山口翔大選手(郡山市在住)が、福島県文化スポーツ局長を表敬訪問。	
6月1日	郡山ヒロセ開成山陸上競技場(郡山市)で開催されたKORIYAMAみらいフェスタin開成山において、デフサッカー体験教室を実施。	
6月2日	東京2025デフリンピックサッカー競技を観戦する子どもたちを対象とした事前学習が尚志高等学校からスタート。	第2章 3-1
6月15日	全日本ろうあ連盟の東京2025デフリンピック大会PRカーの出発セレモニーが岩手県盛岡市で開催。	
6月25日	「手話に関する施策の推進に関する法律(令和7年法律第78号)」が施行。	
6月27日	東京2025デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーターに元サッカー日本代表の北澤豪さんを任命。	第1章 3-7
7月9日	県営あづま球場(福島市)で行われたプロ野球公式戦(巨人対中日)において、デフリンピックPRブースを設置。	
7月16日	令和7年度第1回 東京2025デフリンピック庁内連携会議(書面開催)。	資料編1
7月31日	東京2025デフリンピック日本選手団発表。	第4章 1
8月5日～12日	東京2025デフリンピック大会PRカーが県内を巡回。	第3章 3-2
8月8日	デフリンピックに出場が決定した福島県ゆかりのデフアスリートによる文化スポーツ局長表敬訪問。	第4章 1
8月9日	うすい百貨店(郡山市)において、東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」を開催。	第1章 3-8

	同会場において、デフリンピック大会PRカー及び東京都が企画したカウントダウンモニュメントを展示。	第2章 3-1 3-2
9月18日	福島県庁で開催された福島県議会議員勉強会において、福島市出身の手話通訳士 保科隼希さんとデフサッカー日本代表の林滉大選手が「共生社会の実現～デフリンピックを契機に～」をテーマに講演。	
9月20日～21日	郡山ヒロセ開成山陸上競技場(郡山市)で開催された北海道・東北パラ陸上競技大会において、デフリンピックをPR。	
9月27日	21世紀の森公園(いわき市)で開催されたドリームチャレンジといわきFC公式戦において、デフサッカー日本代表キャプテンの松元卓巳選手がデフリンピックをPR。	第1章 3-10
10月30日	令和7年度第2回 東京2025デフリンピック庁内連携会議。	資料編1
11月8日	とうほう・みんなのスタジアム(福島市)において、東京2025デフリンピックサッカー競技開幕直前イベントを実施。	第1章 3-9
11月12日～25日	公式練習と各試合の救護所対応スタッフとして、福島県から保健師を派遣。	第2章 3-13
11月13日	サッカー競技テクニカルミーティングにおいて、観戦招待に参加した子どもたちの応援メッセージをプリントしたメッセージフラッグを各チームに贈呈。	第2章 3-1
11月14日～25日	11月14日:デフリンピックサッカー競技がJヴィレッジで開幕。男子開幕戦の前に福島県主催のオープニングセレモニーを実施。	第2章 3-1
	11月15日:女子開幕戦の前にブルーインパルスが展示飛行を実施し、全天候型練習場においてサテライト開会式を実施。	3-2
	11月14日～11月25日:Jヴィレッジ6番ピッチ前及びスタジアム入口周辺において、おもてなしエリアを設置。	3-3
	11月14日～11月24日:Jヴィレッジと東日本大震災・原子力災害伝承館を結ぶ「伝承館直通シャトルバス」を運行(火曜日は運休)。	3-4
	11月14日～11月25日:県内の小中高生を競技観戦に招待(平日のみ)。試合中はサインエールで応援。	3-5
	11月14日の男子開幕戦、11月15日の女子開幕戦、11月25日の男女決勝戦において、県内の小学生がエスコートキッズとして参加。	3-6
	11月25日:高円宮妃殿下による競技御覧。	3-11
	11月25日:男女の表彰式において、福島県立会津農林高等学校の生徒が副賞ベアラーとして参加。	3-12 3-14
11月30日	国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)総会が東京都内で開催され、2029年夏季デフリンピックをギリシャで開催することを決定。	
12月19日	いわき芸術文化交流館アリオス(いわき市)で開催された、舞台上での手話通訳、セリフの字幕表示などの鑑賞サポートを取り入れた「バリアフリー公演」において、デフバスケットボール競技日本代表の山田洋貴選手(いわき市出身)が登壇し、トークイベントを実施。	第5章 1
12月21日	円谷幸吉メモリアルアリーナ(須賀川市)で開催された「ボッチャふくしまカップ2025」において、デフリンピックPRブースを出展。福島県ゆかりのデフアスリートがトークイベントを実施。	第5章 2
2026年(令和8年)		
1月26日	福島県ゆかりのデフアスリートによる知事表敬訪問。	第5章 3
1月29日	令和7年度第3回 東京2025デフリンピック庁内連携会議。	資料編1
3月1日	福島トヨタクラウンアリーナ(福島市)で開催された「第1回福島県ろうあ者大会」において東京2025デフリンピックのメダル等を展示。また、福島県ゆかりのデフアスリートによるデフリンピックの出場報告と陸上競技手話言語通訳士保科隼希さん(福島市)による講演会を実施。	第5章 4

※日付は現地時間、名称や肩書などは当時のものです。

